

卒業生の心の古里に 北杣山小学校跡地に記念碑建立



11月23日、昭和37年南条村立南条小学校誕生に伴い、明治34年から60余年間に2,400余名の卒業生を輩出し廃校となった、北杣山小学校記念碑の除幕式が上野の北杣山小学校跡地で行われました。

記念碑は北杣山小学校記念碑建立奉賛会が、北杣山小学校跡地に建立。黒御影石製で「北杣山村立北杣山小学校跡」（揮毫：増澤町長）の文字があり、裏面には北杣山小学校の変遷が記されています。

除幕式では碑文を読み上げた後、小谷昭諦奉賛会会長が「この碑が完成し、さらに地域連携の絆を深め、豊かなふるさとづくりに役立つことを願っています」と述べ、完成を祝いました。

まちの話題



自慢の自然薯がずらり 自然薯まつり



11月23日、県の自然薯まつりが堂宮の南条特産会館で開かれました。品評会には、生産者ら141人が丹精込めて作った自慢の自然薯を出品しました。

重さや形、表皮の色あい、つやなどを審査した結果、最優秀賞の知事賞を含め11点が表彰を受け、

南越前町では、南越前町長賞に青木福治さん（奥野々）、県自然薯生産組合連合会長賞に代継一郎さん（上野）、樫尾成美さん（鋳物師）が入賞しました。

また、自然薯即売会や自然薯入りそばを振舞うバザーなども開かれ、「珍しいものだからご進物用に」と買い求める人で早朝からにぎわいました。

互いの意見を交換 JICA「日中青年交流会」



11月23日、国際協力機構（JICA）の青年招へい事業で、中国で日本語を教えている青年ら10名が南越前町を訪れました。

まず、増澤町長から町の自然や概要などを熱心に聞いた後、交流会の行われるふるさと交流センターきらめきで、そば打ちの体験なども行いました。町内の青年らとの交流会では、中国側からは「日本の若者はあまりにも政治や国に関心がない」「日本は食事の時静か。中国は食事

の時は話しながらとても賑やかなので不思議」「今の中国は、昔の日本のようだと思う。いろんな経験を積み発展している日本は伝統ある素晴らしい国」との意見があり、また、町の青年らは「中国に進出している企業についてどう思うか」「中国の一人っ子政策をどう思うか」「中国についてどう思うか」などと質問、意見を活発に交換し合っていました。



日本一安全・安心な越前市・南越前町まちづくり運動協議会設立大会が、11月23日、越前市文化センターで開かれ、125の団体から約千人が参加し、犯罪に強いまちづくりなど5項目からなる大会宣言を発表し、官民が連携して防犯活動に取り組むことを誓いました。

また、両市町の小中学生から応募のあった中から安全安心まちづくり標語入賞者表彰が行われ、町内では南条中1年の上田翔利さん（下牧谷）の「きっぱりとことわる勇気が悪に勝つ」が優秀賞として表彰を受けました。

おめでとう 100歳 100歳お祝い金贈呈

11月27日、田代アキエさん（今庄）が満100歳の誕生日を迎え、増澤町長がお祝い金10万円を手渡しました。

田代さんは、明治38年11月27日生まれ。増澤町長から「おめでとうございます」とお祝いの言葉を受けると、はっきりした口調で「ありがとうございます」と答えました。

娘さんご夫妻と同居し、91歳で脳梗塞に倒れたものの、今庄老人保健施設でのリハビリに熱心に通われ、現在は歩けるまでに回復、自宅で過ごされています。

食事も毎日、ご自分が食卓でとり、現在はお孫さんが9人、ひ孫さんが12人いらっしゃるとか。田代さんが加わり、町内の100歳以上の方は6人になりました。



新そば打って食べて楽しい～ 今庄新そば収穫祭



11月27日、新そば収穫感謝祭が今庄そば道場で行われ、県内外から多くの人々が訪れ新ソバを味わいました。

新ソバは10月中旬に今庄で収穫。この日はソバを挽く石うす体験や、そば打ち体験などに約150名が参加しました。

体験に訪れた人達は、「今庄のそばはとても美味しいので、皆で作りに行こうと家族揃って来ました。最初の水加減が難しく、こねるのに力が必要ですね。のばすのもコツがありそう」と指導を受けながら、楽しそうにそば打ちに挑戦。そば粉、小麦

粉に水を加えて練った後、手作りだけに味は格別で、美味しそうに舌鼓を打つなど触れ合いを深めていました。